図 書 紹 介・New Publication

Fishes of the Great Barrier Reef and Coral Sea. John E. Randall, Gerald R. Allen and Roger C. Steene. 1991. University of Hawaii Press, Honolulu, Hawaii, U.S.A., xx＋507 pp., $60.00 (hard cover).

本書は南北 2,300 km，その幅 32–260 km にも及ぶ Great Barrier Reef（Coral Sea も含む）の魚類を網羅した生態写真図鑑である。筆頭著者の J. E. Randall 氏についても第二著者の G. R. Allen 氏についても，もう述べることは何もなかろう．その無数ともいえる著作や論文については，淡水であろうが深海であろうが，どんな魚に興味をもつ人でも知らぬ人はいまい．第三著者の R. C. Steene 氏の名は初めて聞いたが，著名な海中写真家とのことである．

本書はまた，J. E. Randall 氏が過去に出版してきた "Caribbean Reef Fishes", "Underwater Guide to Hawaiian Reef Fishes", そして "Red Sea Reef Fishes" と並ぶ一連の生態写真図鑑の一つともいえる．事実，生態写真の周囲に手短かな記載をつけるというスタイルは本書でも踏襲されており，非常に読みやすくて扱いやすい．もちろんすべての魚種の生態写真があるわけでなく，恐くて近づけないサメのなかま，遊泳速度が速くて追いつけないカジキやマグロのなかま，そして一部の珍しい魚については，標本写真や色彩画で代用されている．しかし，その数はごく僅かである．

本書の構成も前著とほぼ同じである．対象海域の地図，線画による各科の紹介，序論（本書の使い方も含む），魚類の体の構造の解説，科の順番（J. Nelson, 1984 の Fishes of the World, 2nd ed. の順）に従った各魚類の解説，用語集，そして索引とつづく．掲載種数は偶然か帳尻合わせか知らないが，ゾロ目の 1,111 種．よくこれだけ写真を集めたものだと感心せざるをえない．当然，対象海域外で撮影された写真も含まれているのだろうが，同定をするうえで何ら問題はない．スペースの関係か，参考文献に相当する欄はない．

あえて欠点をあげるとすれば，本海域で新記録であった場合にその詳細な記録が無いこと，写真のデータが示されていないこと，そして参考文献欄がまったくないことだが，この厚さでこの値段，そしてダイバー等の読者対象を考慮すれば，やむを得ないことといえよう．

少なくともサンゴ礁性魚類を扱う研究者やダイバーには必携の書であり，それ以外の魚類を対象とするものにとっても啓発されるし，眺めていて楽しいことこのうえない．洋書にしては価格設定も低く抑えられているので，いま買い時の一冊といえよう．

（宮　正樹　Masaki Miya）

会 員 通 信・News and Comments

第3回千葉県立中央博物館自然誌シンポジウム「生物進化と生物地理」
—主催者からの報告—

去る 12 日 8 日（日），千葉県立中央博物館において標記のシンポジウムが開催され，生物進化や生物地理に関する講演が計 8 題行われました．プログラムについては 38 巻 3 号の 337 ページに掲載されていますのでそちらをご覧ください．

今回のシンポジウムの開催にあたっては，魚類学雑誌をはじめとして，生物科学ニュースや昆虫分類学若手懇談会ニュース等に案内を掲載させていただき，さらに全国の博物館・大学・研究機関等にポスターやプログラムを送付しました．そのせいか，当日は雨の日曜日という悪条件下にもかかわらず，北は北海道から南は徳島まで総勢 150 名を超す参加者がありました．東京近県とはいえ，都心からバスも含めて 1 時間もかかる千葉中央博です．三分の一近くの人たちが関東以遠からの参加で，主催者一同たいへん感謝しております．シンポジウムも，講演者に若手の血気盛んな研究者を配すことができましたので，質疑応答を含めて結構盛況だったと思います．シンポジウムの内容については当日ご参加いただいた魚類学会会員の方にお任せするとして（何人かの人にお願いしておきました），とりあえずこの場を借りて，講演者の皆様とご参加いただいた魚類学会会員の皆様に御礼申し上げます．

今回のシンポジウムで一つの大きな収穫だったのは，熱意をもった一般の人々や大学院生に大きな知的刺激を与えられたことでしょうか．ある大学院生からはつぎのような内容のメッセージが届きました．「自分は数多くのシンポジウムやセミナーに参加しましたが，今回のシンポジウムほど興奮したことはありませんでした．」また，ある一般の方から届いた手紙には，「当日は難しくて講演の内容はほとんどわかりませんでしたが，帰って数日したら急に勉強がしたくなり，いま本を買って一生懸